

大原の里を守る会

市町名

静岡市葵区

地域		大原集落一円		代表者名	梶山正義	活動期間	平成20～24年度	
協定面積 (h a)	水田	20.00	対象面積 (h a)	水田	20.00	対象資源	数 量	
	畑	22.75		畑	22.75	農用地	42.75ha	
	草地			草地		開水路	6.8km	
	計	42.75		計	42.75	パイプライン		
主要作物	茶、水稻		参加団体	農業者 大原町内会		ため池		
構成員	農業者	非農業者	計			農道	3.5km	
人 数	60	16	76			事業費(年)	1,517,000	
主な活動内容	(基礎部分) ・遊休農地等の発生状況の把握 ・施設の点検 ・共同作業計画の策定 ・草刈り ・配水操作 他		(農地・水向上) ・施設の機能診断 ・診断結果の記録管理 ・年度活動計画の策定 ・きめ細やかな雑草対策 他		(農村環境向上) ・生態系保全計画の策定 ・地域住民等との交流活動 ・地域内の規制等の取り決め ・生態系保全に配慮した施設の適正管理 ・放流、植栽を通じた在来生物の育成 ・希少種の監視 ・生物の生息状況の把握 ・水田を活用した生息環境の提供			
地域の概要	当地区は藁科川の中流に位置し、人口1,000人程度の集落であり、農家一戸当りの耕作面積は少なく、後継者もない現状にある。現在の就農家高齢化に伴い、山を開墾して造成した条件の悪い傾斜地は耕作放棄となるものと思料される。							
目指すべき方向	集落の農業者と非農家が協力して、春に開水路の泥上げ、秋に道路及び開水路側面等の草刈等を継続して実施し、農地環境の良好な保全を目標とする。				水路の泥上げ			
活動の感想	共同活動への参加者は500余名あり、80%が非農家である。今後も非農家の方々との活動が継続できるよう努力していきたい。							
課題	藁科川の河床低下により開水路への取水が困難な現状であり、行政機関の力を借りなければならない。				路肩、法面の草刈			
抱負・コメント	開水路の80%以上が、三面張U字溝を布設してあり、水生生物は生息しにくい現状であるが、平成20年6月に農業集落排水処理施設が供用開始され水質も大幅に向上しているため「日本泥鰌」が生息する地域づくりを目指したい。							
					魚道の清掃			